

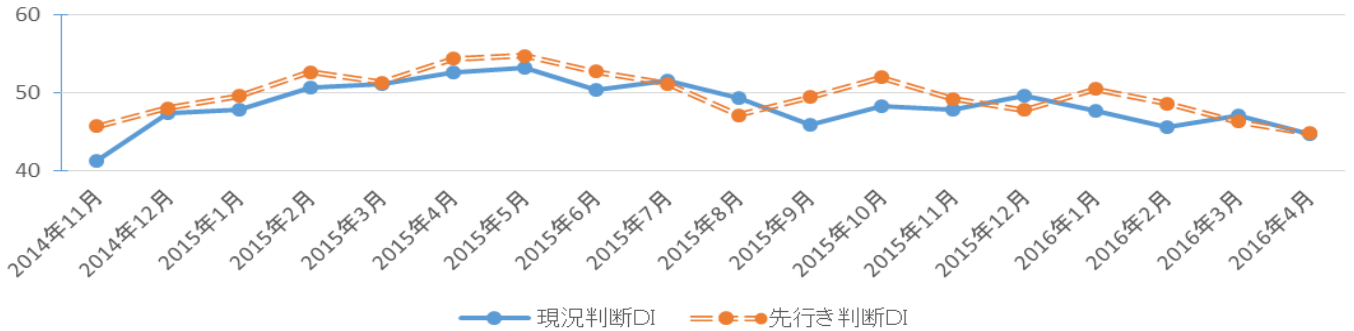
景気ウォッチャー調査

2016.6

景気ウォッチャー調査は景気の現状把握や将来予測に役立てるために用いられる指標です。北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象（三重県は東海に属する）に、家計動向、企業動向、雇用など代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映できる現象を観察できる業種の中から選定した2,050人に質問し、調査結果を内閣府が集計・分析して毎月発表しています。

現状判断DIは現況を、先行き判断DIは2~3ヶ月先の見通しを示します。DIの数値が50であれば「横ばい」を表し、これを上回ると「景気が良い」、下回ると「景気が悪い」と感じる人が多いことを示します。

東海地域 現状・先行きDIの推移



◆東海地方 2016年4月 景気判断 コメント抜粋

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	やや良	伊勢志摩サミットの効果で、関連商品が良く動いている。(一般小売店[土産]・経営者)
		不変	4月に新型車種が発売されたが、過去の発売時のような受注量を確保できない。(乗用車販売店・従業員)
		やや悪	来客数が減少している。客単価は上がっているが、全体としては悪い。(家電量販店・店員)
	企業動向関連	やや良	主力商品の価格を改定したが、今のところ順調な受注である。最盛期に向けて、プロモーションの充実を図っていく。(食料品製造業・経営企画担当)
		不変	地方の中小零細企業向けの不動産等には、価格高騰はみられないが、物件の少なさを顕著に感じる。(不動産業・経営者)
		やや悪	今までは定期的に広告の発注があったが、最近は様子を見る広告主が増えてきており、全体的に厳しい状況になっている。(広告代理店・製作担当)
	雇用関連	やや良	前月同様に求職者数には大きな変動がない。登録者も就業経験が浅い若年層がブランクがある高齢層に集中しており、人員不足を感じる。(民間職業紹介機関・窓口担当)
		不変	新規求人数は6か月連続で前年同月を上回っているが、人手不足が厳しい建設、介護、サービスが中心である。前年同期と比べると新規事業関係の求人が少ない。(職業安定所・職員)
		不変	自動車や電機大手メーカーからの転職希望者が今後増える可能性があり、人材の流動性は更に高まる。(民間職業紹介機関 営業担当)
先行き	家計動向関連	やや良	6月~7月になると蒸し暑くなってきて、パーマやカットの客が増えてくるため、多少は良くなる。(美容室・経営者)
		不変	景気の先行きが不安定なため、企業も個人も投資や消費には積極的に動きづらいと思われる。(乗用車販売店・総務担当)
		やや悪	インバウンドの減少、景気の影響によるビジネス客の減少や消費の鈍化等が懸念される。(都市型ホテル 経営者)
	企業動向関連	やや良	伊勢志摩サミット関連の盛り上がりやポストサミットの経済効果を期待したい。(食料品製造業 経営企画担当)
		不変	従来からの製品の受注量は安定しているが、少しずつ減少している。しかし、新規製品が増えつつあるのでカバーできる。(窯業・土石製品製造業 社員)
		やや悪	仕事量は増えているが、人材が集まりにくく、人件費が増加し利益は減少している。(輸送業 エリア担当)
	雇用関連	やや良	就職イベント等の出展社数や募集広告は増えており、期待感を持っている。(広告代理店 求人広告担当)
		不変	企業の採用意欲は高いが、求職者不足のため、思うようには採用ができない。(人材派遣会社 社員)
		やや悪	熊本地震は自動車メーカーを中心に製造業や物流等に大きな影響を与えている。(新聞社[求人広告] 営業担当)